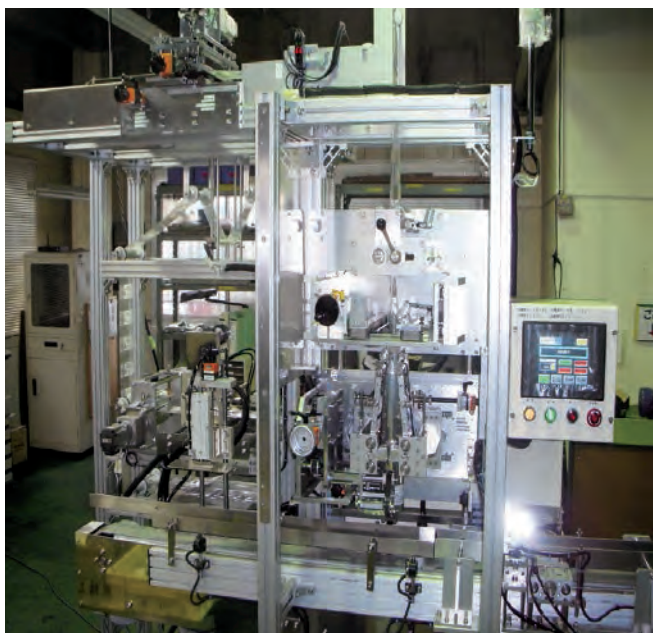


川原精工株式会社

世の中にないものを
つくることに挑戦企画力
自信有
試作可
小ロット

容器にシュリンクフィルムを挿入する装置

業務
内容
省力化・自動化装置を
一品生産

「世の中にないもの、カタログに載っていないものをつくる会社です」と西田敏昭社長は紹介する。かつては大手家電メーカーの液晶関連の仕事がほぼ100%だったが、今では家電メーカーから食品メーカーまで幅広い顧客の注文をこなす。生産の省力化・自動化を目的とした機械や治工具を一品単位で製造する。商社を通じて取引先の拡大を図り、間口を広げている。

強み
設計から据え付けまで
トータル提案

これまでのところ自社製品を持たず、幅広い業界、業種の注文を受けている同社には、あらゆることに挑戦する風土が根付いている。業界を限定しないため、実績のある技術を別の顧客の注文に応用することもできる。社員は設計、組み立て、機械加工、営業、事務を分担しており、顧客に対し設計から据え付けまでトータルに提案している。特にサーボモーターや直動ロボット、エアシリンダーなどを組み合わせて小物を扱う搬送装置の製作を得意とし、製造する装置自体もできるだけコンパクトな設計を追求する。



電子部品を次工程へ供給する装置

環境
対応
3Sを発展、信用向上

同社の工場を見ると、そのきれいさに

驚かされる。マシニングセンタや旋盤、研削盤で金属加工を行っているにもかかわらず、多くの同業他社と比べると格段に清潔な環境にある。「精密な製品や食品を製造する設備を汚い環境でつくっていると、顧客から信用されない」という西田社長の考えで環境整備に力を入れてきた。3S（整理、整頓、清掃）活動を継続して行い、平成21年には環境マネジメントシステム規格「KES認証」を取得した。3S活動と併せて省エネルギー化にも徹底的に取り組んだ成果で、光熱費などコスト低減に加え、取引先からの信用向上に貢献している。同時に取り組みの中で社員の意識も向上、自主的に話し合いをするようになり、技術力にも反映されるという効果も生まれている。

今後の
展望
自慢できる
会社であるために

同社の経営理念の中に「私たちは、自分達の仕事を家族に自慢でき、生涯働き続けたいと思える企業を目指します」という一文がある。規模は小さくとも自慢のできる会社になるには、同社でなければできないものをつくり続けて特徴を打ち出していかねばならない。その源泉となるのは人。顧客への提案を充実するために、部門ごとに勉強会を開催し、部門間の交流を図りながら多能工化を目指している。会社全体の技術レベルを上げ、医療機器や燃料電池関連分野への参入、大学・研究機関への特注機の提案など新たな分野の開拓も狙う。将来は自社製品開発を視野に入れ、西田社長は「できれば自社製品で売上高の4分の1ぐらいを占められるようになれば」と経営の柱育成の夢を描いている。

COMPANY PROFILE

川原精工株式会社

大阪
26当社の
歴史

現相談役の川原慎治が鋳造品加工を目的に昭和40年、大阪市北区で川原鋳造製作所を創業。昭和45年に資本金100万円で法人化、社名を川原精工とし、各種部品加工を開始しました。以後、大手電機メーカーの液晶製品向け生産設備を中心としてきましたが、海外への工場シフトが進んだ平成10年頃からは液晶に限らず、幅広い分野の生産設備製造を行っています。

当社では、社員の多能工化に取り組んでおり、納期が集中した場合、部門間の応援で対応しております。

代表取締役社長 西田 敏昭さん



■主な事業内容
省力化・自動化機械の
設計・製作

■主な取引先（納入先）
家電メーカー、
食品メーカー、商社

住 所／〒566-0052
摂津市鳥飼本町
4-14-1
TEL／072-654-1180
FAX／072-654-9709
創 業／昭和40年6月
設 立／昭和45年3月
資本金／1,200万円
従業員／11名

<http://www.kawaharaseiko.com>